

SEMINOR

□ERICファシリテーター養成講座

PLT「木と学ぼう」(東京/京都)

FAX情報サービス 073#

身近な素材から環境問題を学ぶ、アメリカで開発された教育プログラムPLT「木と学ぼう」。このプログラムを実施できるPLTリーダーを養成するための12時間の研修プログラムです。学校教育はもとより、子ども会などあらゆる機会を環境を考えるチャンスとして生かすことができるような参加型プログラムを学んでみませんか。

東京

日時：96年1月20日(土)14時より
21日(日)16時まで
場所：国際理解教育センターERIC
JR山の手線「田端」北口3分
費用：1万円 宿泊費食費は含まれていません。
宿泊の必要な方は、申込時にお申し出ください。

京都

日時：96年3月9日(土)13時より
10日(日)16時まで
場所、費用は未定。お問合わせ、
お申し込みは：
京都・宇多野ユースホステル
☐075-462-9185

お申し込みはFAXで。講座のお問い合わせはFAX情報サービスをご利用ください。(FAX備え付けの電話から03-3800-9414におかけください。テープが流れたら073#を押して、信号音を確認したらFAXスタートボタンをおすと、情報が流れます。)

WORKSHOP REPORT

□95年度グローバル・セミナー

「フォトランゲージを学ぶ」盛況のうちに終了。

11月11-12日神田の東京YMCA国際奉仕センターにてERICと同YMCAの主催で、グローバル・セミナーが行われました。100名をこえる申込をいただき、当日、全体会では、和やかなうちにも参加者の熱気が満ちたものとなりました。

4つの分科会で始まった今回のセミナーは、テーマのフォトランゲージを「まず体験」すること、その経験をもとに「みんなで考え、つくる」ことをプログラムの中心としました。各分科会のプログラムも幾度かの検討会を経て、学校教育、開発、環境、民衆貿易にかかわる方、また写真やビジュアルの専門家など幅広い人材をファシリテーターとして、実施されました。セミナーを創る過程から「みんなで考え、つくる」作業として、最後の全体会までさまざまな学びの場をつくっていったと思います。

海外からの講師はロズリン・マクドナルド氏。ワールドビジョン・オーストラリアの教育担当である氏はオーストラリアのフォトランゲージ教材、写真ポスター、風刺画やビデオなどを用いながら、フォトランゲージのありかた、手法の留意点など紹介し、ワークショップ/講演ともに参加者との活発な交流がもたれました。

(次ページへ)

ERIC

国際理解教育センター
International Education
Resource & Innovation Center

114 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビル1F
Iwase Bldg. 1F, 1-14-1 Higashi-tabata,
kita-ku, TOKYO, 114 JAPAN
代表案内電話&FAX: 03-3800-9414

P R O G R A M

11月11日(土)

- 9:00 受付開始
 10:00 研修Ⅰ
 「写真教材を使ったワークショップを体験」
 ①「バナナの来た道」 長倉徳生
 ②「地球の仲間たち」 高島みゆき／富岡紀子
 ③「Photolanguage Australia, Profiles of Hunger」 Roslyn McDonald
 ④「地球家族」 梅村松秀／飯沼慶一
 12:00 昼食
 13:00 研修Ⅱ (研修Ⅰと同じワークショップ)
 16:00 基調講演 Roslyn McDonald
 18:00 懇親会 (バナナの試食会、NGOの教材紹介など)
 20:00 終了

11月12日(日)

- 9:00 研修Ⅲ
 「フォトランゲージを使って/つくってみよう」
 ①「地球家族」を使って 角田尚子
 ②NGOの写真資料の活用術 米山敏裕
 ③市販の写真集(印刷物)を使って、メディア・リタラージュを考える 福澤郁文
 ④ちまたのGlobal Issue探検隊(自分で写真を撮り、情報の送り手体験をする) 河村信治
 (昼休み適宜)
 15:00 ふりかえり/まとめ コメンテーター Roslyn McDonald
 16:00 終了

グローバル・セミナー 参加者の声

▼見る立場から、作る立場になることで、やっと写真を観ることができた。バナナをたべたくなりました。(バナナの来た道)

▼一つの国の様々な側面の写真によって、自分が意外に感じる点を意識できた。この素材を授業案にするための話し合いも欲しかった。(地球の仲間たち)

▼豊かさや多様性について考える機会となりました。でも「合意」するのはホントに難しい。授業の流れの作り方も参考になりました。(地球家族)

▼楽しかった。ファシリテーションについても学ぶことができた。でも教材作成の時間がもっと欲しかった。(地球家族)

▼話の進め方、ポイントの伝え方がためになりました。一枚の写真のテーマが多様であると同時に抽象的な写真など様々な写真が一つのテーマで使えることを認識しました。(フォトランゲージオーストラリア)

▼「フォトランゲージにおいてファシリテーターに求められることは、写真そのものの説明よりも、そこから引き出される問題に対する深い理解があることだ」ということが印象に残りました。(ロズリン・マクドナルド氏基調講演)

ロズリン・マクドナルドさんからのメッセージ

今回のフォトランゲージをテーマにしたセミナー参加者のみなさんの熱意と関心の高さに、わたし自身、励まされる思いです。様々な場所や立場で地球上の課題について取り組む人々にあうことは楽しく、わたしにとっても多くを学ぶ機会でした。日本でのこのような機会に感謝しています。

BOOK & RESOURCE

□ERIC新刊案内

「環境教育推進ハンドブック」

県および地域の環境教育を推進していくためのアクションハンドブック

アビー・ラスキー、リチャード・ウィルケ共著 1500円(税込み)送料400円

米国において、州政府・学校・教育機関・公共機関・民間団体などがいかにして環境教育のシステムづくりを進めることができるかを実践にもとづいて提案しています。日本の環境教育の展開を考えるための参考書としてご利用ください。

第1部 はじめに

- ・学校制度に環境教育を充分取り込むために
- ・米国における現状 他

第2部 環境教育を推進するオーガナイザーに役立つ道具箱

お申し込みは郵便振替で書籍代に送料を加えてお振り込みください。

郵便振替番号 00160-3-547794 加入者名 ERIC (通信欄に書名を記載のこと)

PROGRAM GUIDE

□省資源・省エネルギーリーダー研修会 全国30ヶ所で実施

昨年に引き続き、経済企画庁の省資源省エネルギー活動ガイドブック「ステップ1・2・3（'95）」（編集ERIC）の普及のため、今年も各都道府県レベルでのリーダー研修会がもたれました。日頃リサイクル運動など省資源・省エネルギー運動の担い手として活動している参加者たちは楽しくワークショップに取り組んでいました。

どんな活動でも問題意識や目標を仲間と共有しながら、熱意を持ち続けることは、簡単なようで、難しいこともあります。「これなら、地域のグループでも使える!」「楽しい時間を過ごしながら、色々気づきました。」という声が寄せられています。

地域での活動グループでより重要なポイントのひとつが、活動目標と行動計画のたてかたのワークです。6時間研修においてはその内容の検討や分かち合いがより豊かに行われました。

今後も、グローバルな視点を持つ環境を考える機会として、各地でぜひ研修会の開催をご検討ください。

プログラムの一例（6時間コース）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1) 参加して学ぶ | 2) 省資源省エネルギー運動プログラムづくり |
| ①自己紹介（アイスブレイキング） | ①プログラムをかこう |
| ②仲間づくりとグループ分け | ねらいと活動のくみため |
| ③生活の便利をふりかえる | ②プログラムを進行する |
| ④20%80%—地球的公正を考える | |
| ⑤「地球家族」写真を使って豊かさのランキング | |

▼参加者の声

前半は楽しく、後半は人に伝えることの難しさに頭をひねりました。そこで、この運動の大切さを再認識できたと思います。

□PRA Participatory Rural Appraisal (主体的参加地域評価法)で地域評価をしませんか?

地域で住民のニーズや希望を知るために一般的に行われる方法は、アンケートや聞き取り調査です。しかし、アンケート調査というものは、アンケート用紙が作られた段階で聞きたいことは限平定されてしまいます。その結果、膨大な量のアンケートを処理し、長く待たされたあげく、聞きたかったことについてのおよその動向がつかめるだけにおわることも少なくありません。

95年9月にERICが主催したPRAワークショップでは、従来の地域住民ニーズ調査とは全くことなる調査手法の研修が行われました。いわば「地域住民の、地域住民による、地域住民のための」地域調査です。しかも短期間で結果を共有することができます。

環境や社会的弱者に配慮したアメニティーの高い地域づくりには住民参加が不可欠です。「参加型」のアプローチには、社会参加について自らが積極的に参加するだけでなく、社会の多様な構成員を認め合い、民主的に社会的合意を形成するというバランスのとれた見方、態度を培う教育的効果があります。

ERICではPRAによる地域調査、またPRAファシリテーター養成講座開催のご依頼を受付けています。「参加型」の良さは、体験して初めて分かるものですが、出来るだけ内容を理解していただけるよう9月に行われたPRAワークショップの報告書も用意しています。(150ページ、定価1万円。)

内容やテーマはひろく設定が可能です。調査、また人材育成のプログラムとしてぜひ、来年度の事業のなかでご検討ください。詳しくはERICまでお問い合わせください。(電話03-3800-9415~6)

PRAはそれぞれの場の明日をつくる参加・参画のための調査です。

参考予算 PRA調査経費	80~100万円
PRAファシリテーター養成講座実施経費	30~50万円

INFORMATION

□ERIC事務所が広がります。

現在の事務所に移転して一年がすぎました。ERICでは資料室の拡張と、アイデアを共有する場として皆様により積極的にご活用いただくために、事務所を広げました。隣接のスペースを資料室として、移動書庫や閲覧スペースを設けたほか、ミーティングスペースでは20人程度のワークショップが可能です。ぜひ、いちどお立ち寄りください。なお、資料室ご利用の際は事前にご連絡のうえ、お越しく下さい。(会員以外の方には閲覧料500円を申し受けます。)資料室ご利用についてはFAX情報案内008#をご利用ください。資料室利用申し込は☎03-3800-9416まで。

□ワークショップERICも始まります。

会員向け研修会「ワークショップERIC」も始まります。ERICの資料を活用して情報やアイデアを共有し、教材、プログラムを「みんなで作る」場です。ご参加はもちろん、テーマや内容についてのご意見、ご提案など事務局までお寄せください。非会員の方で参加ご希望の方は事務局までご相談ください。

□ERICの出版物はこんなところで引用/紹介されています。

たとえば、

家庭科をおもしろくする本

発行：グローバル・エデュケーションセンター

開発教育教材カタログ

発行：開発教育協議会

人・まち・地球 いきいきハンドブック

発行：(社)日本青年会議所

いま、私たちにできること

発行：国際協力事業団

(94年9～95年8月までの一例)

■出版物(書籍/報告書など)への引用/転載に際しては必ずERIC事務局までご連絡ください。

ERICの出版物は、その原書を出版している海外の様々な団体の承認を得て製作しています。日本での事例や反応などがどのように活用されているかを報告いただくことは、ERICにとっても、海外の団体にとっても大変参考になります。よりよい教育の内容を共につくっていくためにも、ぜひ、ご理解、ご協力お願いいたします。引用・転載に際しての詳細は事務局まで。

□「米国環境教育事情 — PLT・WILD・WETを中心として」

PLTファシリテーターハンドブックと8月に環境教育研修米国ツアーに参加した学生が中心となりまとめた報告集が、上記のタイトルで完成しました。樹木(PLT)、野生動物(WILD)、水(WET)などを自然界への「窓」として使う環境教育プログラムの研修報告会も、参加した学生たちを中心に三重、横浜、東京で行われました。ハンドブックは地域でワークショップを実施するためのノウハウ、ファシリテーションのさまざまな技術やチェックリストがわかりやすく説明されています。ERICファシリテーター養成講座受講者に頒布の予定です。

□M. E. E. T. ザ・ワールド

カンボジア環境教育ボランティア派遣が始まります。

12月1日段階では、研修生の内30名が現地派遣を希望されています。1月にはカンボジア語の集中講座が開かれます。

派遣ボランティアは2月より順次現地(ラタナキリ州他)に出発し、3月末まで交代で滞在する予定です。現地ではカンボジアの中学生たちと、英語を介して環境について考え、表現する授業を行います。お互いの生活を環境問題を通して知り合い、学び合うことができればと願っています。

次号は3月20日発行予定です。(年4回発行)ご意見ご提案などFAXにてお寄せください。

FAX 03-3800-9414 ERIC通信あて